

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	理学療法研究法Ⅰ						
担当講師	菊池賢汰						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義/演習/実習						

授業概要

1. 理学療法における研究の必要性を学修します。
2. 理学療法分野における研究手法を学修します。
3. 統計解析に関する基礎的知識を学修します。

学修到達目標

1. 理学療法における研究の位置づけを説明できる。
2. 理学療法研究の流れを説明できる。
3. 模擬研究計画書を作成できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|----------------------|
| 第1回 | 理学療法研究法とは |
| 第2回 | 理学療法における研究の位置づけ |
| 第3回 | 理学療法研究を始めるための準備 |
| 第4回 | 研究デザインの基礎的知識 |
| 第5回 | 観察研究の基礎的知識 |
| 第6回 | 介入研究の基礎的知識 |
| 第7回 | データの特性と測定前の事前計画 |
| 第8回 | 研究計画書の作成方法 |
| 第9回 | 倫理的配慮と倫理審査申請書 |
| 第10回 | 文献検索の必要性と実践的方法 |
| 第11回 | 統計解析のための基礎的知識 |
| 第12回 | 統計解析①（差の検定） |
| 第13回 | 統計解析②（分散分析） |
| 第14回 | 統計解析③（相関分析） |
| 第15回 | 統計解析④（単回帰分析） |
| 第16回 | 統計解析⑤（重回帰分析） |
| 第17回 | 統計解析⑥（多重ロジスティック回帰分析） |
| 第18回 | 統計解析⑦（カイ二乗検定） |
| 第19回 | 研究計画書の作成① |
| 第20回 | 研究計画書の作成② |
| 第21回 | 研究計画書の作成③ |
| 第22回 | 研究計画書の作成④ |
| 第23回 | 研究計画書の作成⑤ |

評価方法

課題レポート

教科書

プリント教材

参考図書・文献

最新理学療法学講座 理学療法研究法（医歯薬出版株式会社）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義内容には理学療法研究において使用される用語が頻出します。日頃から論文に触れる機会を多くもち、講義に臨んでください。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	理学療法評価学Ⅱ						
担当講師	菊池賢汰 戸来幸恵 及川龍彦						
実務経験の概要	菊池賢汰 : 理学療法士 医療施設において実務経験を有する。 戸来幸恵 : 理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。 及川龍彦 : 理学療法士 医療施設・老人保健施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/オムニバス						

授業概要

画像情報やラボデータから対象者の状態を推測する流れを学習します。

学修到達目標

1. 骨関節系理学療法における医学的情報の概要および活用方法を説明できる。
2. 各種脳画像の特徴と病変の捉え方を理解する。
3. 内部障害系理学療法における医学情報の活用方法を理解する。
4. 理学療法評価において注目すべき所見を説明できる。

授 業 計 画

第1回	骨関節疾患における画像評価の概要	菊池賢汰
第2回	骨関節疾患における正常画像の診かた①（上肢）	菊池賢汰
第3回	骨関節疾患における正常画像の診かた②（下肢・体幹）	菊池賢汰
第4回	骨関節疾患における異常画像の診かた	菊池賢汰
第5回	骨関節疾患における主要な検体検査情報	菊池賢汰
第6回	脳画像を読むための基礎知識	戸来幸恵
第7回	頭部CTの特徴と病変の捉え方	戸来幸恵
第8回	脳血管障害のCT画像	戸来幸恵
第9回	頭部MRI・MRAの特徴と病変の捉え方	戸来幸恵
第10回	理学療法評価において注目すべき所見	戸来幸恵
第11回	内部障害系疾患における情報の位置付け	及川龍彦
第12回	内部障害系理学療法における血液検査データの取り扱い	及川龍彦
第13回	内部障害系理学療法における画像データの取り扱い	及川龍彦
第14回	内部障害系理学療法における心電図の取り扱い	及川龍彦
第15回	内部障害系疾患におけるデータの取り扱い	及川龍彦

評価方法

筆記試験

教科書

運動器障害理学療法学テキスト（南江堂） 神経筋障害理学療法テキスト(南江堂) プリント教材

参考図書・文献

絵でみる脳と神経(医学書院) 内部障害理学療法テキスト(南江堂)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

骨関節分野では解剖・生理・運動学の基礎的知識が講義理解に関わります。十分に復習するようにしてください。(菊池)

1年次で学んだ脳・神経についての復習を十分に行ってください。(戸来)

内部障害分野では生理学的基礎が講義理解に大きく関わりますので、生理学の復習を十分に行ってください。(及川)

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	理学療法評価学Ⅲ						
担当講師	戸来幸恵 齊藤公太 及川龍彦						
実務経験の概要	戸来幸恵 : 理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。 齊藤公太 : 理学療法士 医療施設、介護施設にて実務経験を有する。 及川龍彦 : 理学療法士 医療施設・老人保健施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/実技/オムニバス						

授業概要

機器を用いた理学療法評価の種類や方法を理解し、その活用方法について学修します。

学修到達目標

1. 筋力検査の目的と検査方法を理解できる。
2. 中枢神経系疾患に対する理学療法評価に必要な機能的評価手法を理解できる。
3. 内部障害系理学療法における機器を用いた情報の活用方法を理解する。

授 業 計 画

第1回	筋力・筋力低下の要因	戸来幸恵
第2回	筋力検査の目的・測定手順・測定時の注意点	戸来幸恵
第3回	等尺性筋力検査	戸来幸恵
第4回	HHDを用いた筋力検査の実践	戸来幸恵
第5回	等速性筋力検査・粗大筋力検査	戸来幸恵
第6回	姿勢制御と重心動揺の理解①	齊藤公太
第7回	姿勢制御と重心動揺の理解②	齊藤公太
第8回	重心動揺計の実践	齊藤公太
第9回	バイオフィードバック	齊藤公太
第10回	筋電計の理解とバイオフィードバックへの活用	齊藤公太
第11回	内部障害系理学療法に用いられる機器とその活用	及川龍彦
第12回	スパイロメトリー	及川龍彦
第13回	心肺運動負荷試験	及川龍彦
第14回	内部障害系理学療法で活用される簡便機器	及川龍彦
第15回	内部障害系理学療法における機器の活用（実技）	及川龍彦

評価方法

筆記試験

教科書

理学療法評価学(金原出版株式会社) プリント教材

参考図書・文献

理学療法ハンドブック(協同医書出版社) 内部障害理学療法学テキスト(南江堂)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

理学療法評価学を学ぶためには解剖学・生理学・運動学の知識が必要となりますので、十分な復習を行ってください。（戸来）
理学療法評価学を学ぶためには、解剖学、生理学、運動学の知識が必要となりますので、十分な復習を行ってください。（斉藤）
内部障害分野では生理学的基礎が講義理解に大きく関わりますので、生理学の復習を十分に行ってください。（及川）

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	理学療法評価学Ⅳ						
担当講師	戸来幸恵						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義・実技						

授業概要

理学療法評価を実践するための評価の過程を理解し、基本的な理学療法評価技術を修得します。

学修到達目標

1. 疼痛に対する評価方法を理解し、実践できる。
2. 運動発達検査を理解し、実践できる。
3. 姿勢・動作・歩行分析について理解し、実践できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|-------------------|
| 第1回 | 疼痛評価に必要な基礎知識 |
| 第2回 | 疼痛評価の目的と方法 |
| 第3回 | 疼痛評価の実践 |
| 第4回 | 運動発達検査に必要な基礎知識 |
| 第5回 | 運動発達検査の目的と方法 |
| 第6回 | 運動発達検査の実践 |
| 第7回 | 姿勢・動作分析に必要な基礎知識 |
| 第8回 | 姿勢・動作分析の概念と評価の目的 |
| 第9回 | 姿勢観察・分析の方法とポイント |
| 第10回 | 姿勢観察の実践 |
| 第11回 | 触診の実践 |
| 第12回 | 姿勢分析の実践① |
| 第13回 | 姿勢分析の実践② |
| 第14回 | 動作観察・分析の方法とポイント |
| 第15回 | 動作観察の実践 |
| 第16回 | 動作分析の実践① |
| 第17回 | 動作分析の実践② |
| 第18回 | 歩行分析に必要な基礎知識・異常歩行 |
| 第19回 | 歩行分析の方法とポイント |
| 第20回 | 歩行観察の実践 |
| 第21回 | 歩行分析の実践① |
| 第22回 | 歩行分析の実践② |
| 第23回 | 歩行分析の実践③ |

評価方法

筆記試験(70%)・レポート課題(30%)

教科書

理学療法評価学(金原出版) 動作分析(メディカルビュー社) 基礎運動学(医歯薬出版)

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

理学療法評価学を学ぶためには解剖学・生理学・運動学・人間発達学の知識が必要となりますので、十分な復習を行ってください

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	理学療法評価学Ⅴ						
担当講師	戸来幸恵 及川龍彦						
実務経験の概要	戸来幸恵 : 理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。 及川龍彦 : 理学療法士 医療施設・老人保健施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	60	開講時期	後期
授業形態	講義/実技/オムニバス						

授業概要

理学療法における徒手の検査測定法の基礎を理解し、その技術を習得します。

学修到達目標

1. 関節可動域測定の基本的測定を理解し、実践できる。
2. 徒手筋力検査法の基本的測定を理解し、実践できる。
3. 整形外科的検査の方法を理解し、実践できる。
4. 協調運動機能検査の理論を理解し、方法を身につける。
5. 筋緊張検査の理論を理解し、方法を身につける。
6. 病的反射検査の理論を理解し、方法を見つける。
7. バランス検査の理論を理解し、方法を見つける。

授 業 計 画

第1回	関節可動域測定の意義・目的と可動域制限因子について	戸来幸恵
第2回	関節可動域測定：肩甲帯・肩関節	戸来幸恵
第3回	関節可動域測定：肘関節・前腕・手関節	戸来幸恵
第4回	関節可動域測定：股関節・膝関節	戸来幸恵
第5回	関節可動域測定：足関節・足部	戸来幸恵
第6回	関節可動域測定：頸部・胸腰部	戸来幸恵
第7回	関節可動域測定：手指・足趾	戸来幸恵
第8回	徒手筋力検査の意義・目的と判定基準について	戸来幸恵
第9回	徒手筋力検査：肩甲帯・肩関節のテスト	戸来幸恵
第10回	徒手筋力検査：肘関節・前腕・手関節のテスト	戸来幸恵
第11回	徒手筋力検査：股関節・膝関節・足関節のテスト	戸来幸恵
第12回	徒手筋力検査：頸部・体幹筋のテスト	戸来幸恵
第13回	徒手筋力検査：手指・足趾のテスト	戸来幸恵
第14回	整形外科的検査①	戸来幸恵
第15回	整形外科的検査②	戸来幸恵
第16回	徒手の検査の概念	及川龍彦
第17回	理学療法評価における徒手の検査の役割	及川龍彦
第18回	病的反射検査の背景知識	及川龍彦
第19回	病的反射検査の目的と活用	及川龍彦
第20回	病的検査の種類と方法（実技）	及川龍彦

第21回	筋緊張検査の背景知識	及川龍彦
第22回	筋緊張検査の目的と活用	及川龍彦
第23回	筋緊張検査の種類と方法（実技）	及川龍彦
第24回	協調性運動機能検査の背景知識	及川龍彦
第25回	協調性運動機能検査の目的と活用	及川龍彦
第26回	協調性運動機能検査の種類と方法（実技）	及川龍彦
第27回	バランス検査の背景知識	及川龍彦
第28回	バランス検査の目的と活用	及川龍彦
第29回	バランス検査の種類と方法（実技）	及川龍彦
第30回	理学療法評価における簡易的検査の活用（実技）	及川龍彦

評価方法

筆記試験(80%) 口頭試問(20%)

教科書

臨床での検査精度を高める！ROM測定法(メジカルビュー社) 臨床での検査精度を高める！MMT(メジカルビュー社)
プリント教材

参考図書・文献

理学療法評価学（金原出版）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

解剖学・運動学の知識と触診技術が必要となりますので、十分な復習を行ってください。（戸来）
検査の理解には解剖学的背景と運動器の関連を理解する必要があります。十分に予習をしてください。（及川）

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	骨関節系理学療法学Ⅰ						
担当講師	菊池賢汰						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義/演習/実習/グループワーク						

授業概要

骨関節系理学療法の必要性和理学療法における位置づけを学修します。

学修到達目標

1. 骨関節系理学療法の必要性を説明できる。
2. 骨関節系理学療法の流れを説明できる。
3. 骨関節系理学療法における基礎的知識を習得する。

授 業 計 画

- | | |
|------|-------------------|
| 第1回 | 骨関節系理学療法の概要 |
| 第2回 | 肩関節疾患に対する理学療法の考え方 |
| 第3回 | 肩関節疾患に対する理学療法の流れ |
| 第4回 | 肘関節疾患に対する理学療法の考え方 |
| 第5回 | 肘関節疾患に対する理学療法の流れ |
| 第6回 | 手関節疾患に対する理学療法の考え方 |
| 第7回 | 手関節疾患に対する理学療法の流れ |
| 第8回 | 股関節疾患に対する理学療法の考え方 |
| 第9回 | 股関節疾患に対する理学療法の流れ |
| 第10回 | 膝関節疾患に対する理学療法の考え方 |
| 第11回 | 膝関節疾患に対する理学療法の流れ |
| 第12回 | 足関節疾患に対する理学療法の考え方 |
| 第13回 | 足関節疾患に対する理学療法の流れ |
| 第14回 | 脊椎疾患に対する理学療法の考え方 |
| 第15回 | 脊椎疾患に対する理学療法の流れ |

評価方法

筆記試験

教科書

運動器障害理学療法学テキスト改訂第3版（南江堂）プリント教材

参考図書・文献

筋骨格系のキネシオロジー原著第3版（医歯薬出版株式会社）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

本講義では解剖・生理・運動学の基礎的知識が講義理解に関わります。十分に復習した上で講義に臨んでください。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	中枢神経系理学療法学Ⅰ						
担当講師	斉藤公太						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設、介護施設にて実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義・実技						

授業概要

中枢神経系疾患の病態や機序、症状をについて学修を行います。また、それらの症状に対する理学療法評価や理学療法の進め方、リスク管理などについて学修を行います。

学修到達目標

1. 中枢神経系疾患の代表的な病態や機序、症状を理解できる。
2. 中枢神経系疾患に対する理学療法評価の理解ならびに実践ができる。
3. 中枢神経系疾患に対する理学療法介入方法を理解することができる。

授 業 計 画

- 第1回 運動神経障害の機序とその症状
- 第2回 運動神経障害に対する評価及び介入①（運動麻痺）
- 第3回 運動神経障害に対する評価及び介入②（パーキンソン症候群）
- 第4回 運動神経障害に対する評価及び介入③（運動失調）
- 第5回 感覚神経障害の機序とその症状
- 第6回 感覚神経障害に対する評価および介入①
- 第7回 感覚神経障害に対する評価および介入②
- 第8回 高次脳機能障害に対する機序とその症状
- 第9回 高次脳機能障害に対する評価および介入
- 第10回 脳神経障害の機序とその症状
- 第11回 脳神経障害に対する評価および介入
- 第12回 脳血管疾患のリスク管理①
- 第13回 脳血管疾患のリスク管理②
- 第14回 脳血管疾患者の代表的な能力・生活障害理解①
- 第15回 脳血管疾患者の代表的な能力・生活障害理解②

評価方法

筆記試験

教科書

神経筋障害理学療法学テキスト（南江堂） 絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム（医学書院）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

中枢神経系の解剖や機能を復習した上で講義に臨んで下さい。

【専門分野】		【理学療法学科】					
科目名	内部障害系理学療法Ⅰ						
担当講師	及川龍彦						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設・老人保健施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義						

授業概要
内部障害系理学療法の必要性和理学療法における位置づけを学修します。

学修到達目標
1. 内部障害系理学療法の必要性を理解する。 2. 内部障害系理学療法の流れを理解する。 3. 内部障害系理学療法実施に必要な知識を羅列できる。

授 業 計 画	
第1回	内部障害系理学療法に必要な解剖学・生理学・運動学的知識①
第2回	内部障害系理学療法に必要な解剖学・生理学・運動学的知識②
第3回	内部障害系理学療法に必要な解剖学・生理学・運動学的知識③
第4回	内部障害系理学療法に用いられる用語とその意味
第5回	呼吸器疾患の病態
第6回	呼吸器疾患に対する理学療法の考え方
第7回	呼吸器疾患に対する理学療法の流れ
第8回	心大血管疾患の病態
第9回	心大血管疾患に対する理学療法の考え方
第10回	心大血管疾患に対する理学療法の流れ
第11回	心肺腎の関連
第12回	代謝系疾患の病態
第13回	代謝系疾患に対する理学療法の考え方
第14回	代謝系疾患に対する理学療法の流れ
第15回	理学療法と人工透析

評価方法
筆記試験

教科書

参考図書・文献
内部障害理学療法学テキスト（南江堂）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)
本講義では生理学的基礎が講義理解に大きく関わりますので、生理学の復習を十分に行ってください。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	物理療法学Ⅰ						
担当講師	及川龍彦						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設・老人保健施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義/演習						

授業概要

理学療法における物理療法の位置づけと治療の背景に存在する生理学的基礎を学修します。

学修到達目標

1. 理学療法における物理療法の位置づけを理解出来る。
2. 物理療法の種類を羅列できる。
3. 物理療法の生理学的・物理学作用を理解出来る。

授 業 計 画

- | | |
|------|-------------------|
| 第1回 | 物理療法概論① |
| 第2回 | 物理療法の歴史①（演習） |
| 第3回 | 物理療法の歴史②（演習） |
| 第4回 | 温熱療法の生理学的作用① |
| 第5回 | 温熱療法の生理学的作用② |
| 第6回 | 温熱療法の生理学的作用③ |
| 第7回 | 寒冷療法の生理学的作用① |
| 第8回 | 寒冷療法の生理学的作用② |
| 第9回 | 水治療法の生理学的・物理学的作用① |
| 第10回 | 水治療法の生理学的・物理学的作用② |
| 第11回 | 水治療法の生理学的・物理学的作用③ |
| 第12回 | 光線療法の生理学的作用① |
| 第13回 | 光線療法の生理学的作用② |
| 第14回 | 牽引療法の物理学的作用 |
| 第15回 | 物理療法と運動療法 |

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材

参考図書・文献

物理療法学（金原出版）

履修上の留意点及び講義時間外の学習（予習・復習）

物理療法は操作マニュアルよりも、改善に至る生理学的な根拠の理解が必要になりますのでしっかり学習してください。

【專門分野】

【理学療法学科】

科目名	装具学						
担当講師	戸来幸恵						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義・実技・グループワーク						

授業概要

装具の基本的な構造と機能を理解し、疾患や障害に適した装具の選択や装具療法について修得します

学修到達目標

1. 装具の基本的な構造や機能が理解できる
2. 疾患や障害に適した装具が選択できる
3. 装具療法について理解できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|----------------|
| 第1回 | 装具学総論 |
| 第2回 | 装具を理解するための運動学 |
| 第3回 | 短下肢装具 |
| 第4回 | 長下肢装具 |
| 第5回 | 靴型装具 |
| 第6回 | 下肢装具のチェックアウト |
| 第7回 | 上肢装具 |
| 第8回 | 上肢装具のチェックアウト |
| 第9回 | 頸部体幹装具 |
| 第10回 | 頸部体幹装具のチェックアウト |
| 第11回 | 脳卒中片麻痺患者に対する装具 |
| 第12回 | 脊髄損傷患者に対する装具 |
| 第13回 | 小児疾患患者に対する装具 |
| 第14回 | 整形外科疾患患者に対する装具 |
| 第15回 | スポーツ外傷に対する装具 |

評価方法

筆記試驗

教科書

義肢装具学テキスト(南江堂)

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

装具について理解を深めるためには、解剖学、運動学、各疾患に対する知識が必要となりますので、各科目の復習を行って講義に臨んでください。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	福祉用具学						
担当講師	斉藤公太						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設、介護施設にて実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	15	開講時期	後期
授業形態	講義						

授業概要

福祉用具の概念や支援方法、関連制度などについて学修を行います。また、臨床現場における対象者の身体状況や環境の評価に基づいた福祉用具の適応について学修を行います。

学修到達目標

1. 福祉用具の役割や重要性、関連制度を理解することができる。
2. 身体状況や生活環境に応じた福祉用具の選定や支援・活用方法が理解できる。

授 業 計 画

- 第1回 福祉用具の重要性や役割、関連制度
- 第2回 日常生活における福祉用具の役割や適応（臥位、起居）
- 第3回 日常生活における福祉用具の役割や適応（座位・立位における生活動作）①
- 第4回 日常生活における福祉用具の役割や適応（座位・立位における生活動作）②
- 第5回 日常生活における福祉用具の役割や適応（座位・立位における生活動作）③
- 第6回 日常生活における福祉用具の役割や適応（移動補助具）①
- 第7回 日常生活における福祉用具の役割や適応（移動補助具）②
- 第8回 手段的日常生活動作における福祉用具の役割や適応
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材

参考図書・文献

福祉用具専門相談員研修テキスト（一般社団法人シルバーサービス振興会）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	生活活動学Ⅱ						
担当講師	長野由紀江						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 演習 実習						

授業概要

1. 対象者の生活活動の状況を把握するための生活活動の評価について学修します。
2. 対象者の生活活動における制限を軽減するための具体的介入について学修します。

学修到達目標

1. 生活活動の状況を把握するための評価を挙げ、意義・目的・方法などを述べることができる。
2. 生活活動における評価について、演習を通して理解し、実践することができる。
3. 生活活動の制限に対し、介入する目的と方法を説明することができる。

授 業 計 画

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 日常生活活動における評価の役割 |
| 第2回 | QOLの概念と評価 1 |
| 第3回 | QOLの概念と評価 2 |
| 第4回 | 日常生活活動の評価概要 1 |
| 第5回 | 日常生活活動の評価概要 2 |
| 第6回 | 様々な日常生活活動における評価の理解と実践 1 |
| 第7回 | 様々な日常生活活動における評価の理解と実践 2 |
| 第8回 | 様々な日常生活活動における評価の理解と実践 3 |
| 第9回 | 日常生活活動の評価 質的評価 1 |
| 第10回 | 日常生活活動の評価 質的評価 2 |
| 第11回 | 日常生活活動自立に向けての介入 対象者への介入 1 |
| 第12回 | 日常生活活動自立に向けての介入 対象者への介入 2 |
| 第13回 | 日常生活活動自立に向けての介入 対象者への介入 3 |
| 第14回 | 日常生活活動自立に向けての介入 対象者環境への介入 1 |
| 第15回 | 日常生活活動自立に向けての介入 対象者環境への介入 2 |

評価方法

筆記試験

教科書

日常生活活動学テキスト(南江堂) ・プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

- 1 学年で学修した生活活動学を基盤として学習を進めることを理解し、授業に臨んで下さい。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	対象者支援学Ⅰ						
担当講師	戸来幸恵						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義・実技・演習						

授業概要

対象者の自立生活支援をするために必要な対象者への教育や、生活環境調整に必要な評価、支援方法を理解するための知識、思考を修得します。

学修到達目標

1. ポジショニング、シーティングにおける座位保持について理解する。
2. 患者教育の必要性を理解し、指導できるスキルを修得する。
3. 生活環境の概要と対象者の生活環境評価の過程を理解する。
4. 対象者がその環境に適応するように環境改善するための手段を理解する。

授 業 計 画

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | 姿勢保持の基本 |
| 第2回 | 姿勢の評価とポジショニング |
| 第3回 | ポジショニングの実践 |
| 第4回 | 座位姿勢を考える |
| 第5回 | 車椅子処方の基礎 |
| 第6回 | 車椅子・シーティングの実践① |
| 第7回 | 車椅子・シーティングの実践② |
| 第8回 | 障害者総合支援法について |
| 第9回 | 患者・家族教育の必要性 |
| 第10回 | 患者教育・指導の実践 |
| 第11回 | 地域環境の現状 |
| 第12回 | 生活環境を知る |
| 第13回 | 身体能力と環境とのマッチング |
| 第14回 | 居住環境の整備 |
| 第15回 | 福祉用具・社会生活支援用具等による生活支援 |

評価方法

レポート課題

教科書

必要に応じて資料配布

参考図書・文献

標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学(医学書院)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

疾患の特性を理解したうえで学習できるよう、専門基礎科目の復習を行って下さい

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	地域理学療法学Ⅱ						
担当講師	齊藤公太						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設、介護施設にて実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

地域リハビリテーションの概念に則った理学療法評価や治療の視点を学修します。また、各種サービスや支援方法の特性を踏まえて対象者への関わり方を学修します。

学修到達目標

1. 各種サービスや支援方法を理解できる。
2. 地域リハビリテーションにおける理学療法士の実践的な役割や関わり方を理解できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | 地域包括ケアシステム構築に向けての実践 |
| 第2回 | 訪問リハビリテーションの理解 |
| 第3回 | 訪問リハビリテーションの実践 |
| 第4回 | 通所リハビリテーションの理解 |
| 第5回 | 通所リハビリテーションの実践 |
| 第6回 | 入所リハビリテーションの理解 |
| 第7回 | 入所リハビリテーションの実践 |
| 第8回 | 健康支援（骨関節系疾患の障害構造の視点） |
| 第9回 | 健康支援（中枢神経系疾患の障害構造の視点） |
| 第10回 | 健康支援（認知症の症候の視点） |
| 第11回 | 終末期の支援 |
| 第12回 | 自立支援の関わり、ADL・IADLの評価と関わりの重要性 |
| 第13回 | 介護予防の理解と実践 |
| 第14回 | 事例検討① |
| 第15回 | 事例検討② |

評価方法

筆記試験

教科書

標準理学療法学専門分野 地域理学療法学（医学書院）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

1年次に行った地域理学療法学Ⅰを十分に復習して講義に臨んでください。

【臨床実習】

【理学療法学科】

科目名	地域理学療法導入実習						
履修年次	2	単位数	1	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	実習						

実習目的

- 1，在宅生活を営む対象者の生活状況と障害の関連を考察します.
- 2，対象者が持つ問題それぞれの関連を理解し，求められるニーズを考察します.

実習概要

通所・訪問リハビリテーションサービス提供事業所での実習を通じ，地域に在住する対象者の障害像と実生活の関連に関する理解を深めます.

学修到達目標

- 1，実生活を営む対象者の状況と障害の関連を理解します.
- 2，対象者が持つ問題それぞれのつながりを理解します.
- 3，通所・訪問リハビリテーションサービスの業務を理解します.

評価方法

提出課題

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

学内での学修に励み，別に発行される「地域理学療法導入実習のしおり」を熟読したうえで望んでください.